

パレスチナの孤児たちに支援を!

パレスチナ孤児支援実行委員会 / パレスチナ連帯・札幌

今パレスチナの人々は悲鳴を上げています。軍事占領と高さ8mもの分断壁に囲まれ、大小200ヶ所以上の検問所によって、人々は域内の移動の自由すら奪われています。特に孤児たちは、暑い夏でもコンクリートの道路で遊ぶしかありません。

私たちは昨年8月に全国からの支援金でパレスチナの男子孤児院「ダールエイタン」の86名をオアシス「ワディ・ビーダン」への日帰りバス・ピクニックに連れて行き、楽しい思い出をプレゼントすることが出来ました。水着も皆様のプレゼントで、子供たちには最高の一日でした。ありがとうございます。今年も引き続き孤児支援を続けます。

支援の対象は女子孤児院「ラザロ・女の子の家」と、地域の孤児のための文化・音楽教育施設「ビジョン・センター」の二ヶ所です。「ラザロの女の子の家」は現在4歳から17歳までの31人の子供たちがスタッフ6人と共に「家族」として暮らしています。1997年2月、クリスチャンのサマール・サハール女史(48)によって創設され、男子が中心のイスラム文化の中で、どうしても虐げられがちな女子孤児の教育に、特に力を入れています。自治政府の援助は皆無で、欧米のキリスト系の団体の僅かな支援で運営されています。

「ビジョン・センター」は昨年の1月に、ウィリアム・ボスカールジョンさん(60)の家族によって創設されました。彼は「占領され、壁に閉ざされた社会だからこそ自由で創造的な平和を作り出すことが必要で、若い男女が音楽を奏で、絵を描き、民族舞踊を踊ることは、閉ざされた世界から新しい希望の世界を作り上げることになる」と、支援を訴えています。

私たち実行委員会では、「ビジョン・センター」の企画する計8回のサマーキャンプの日帰りバスの借り入れ費用と「ラザロ女の子の家」の31名がサマーキャンプに参加出来るための費用30万円を当面の目標に、ご支援を呼びかけたいと思います。

<寄付金>

一口 千円ですが、何口でも結構です。

「払込取扱票」の記入の仕方：

加入者名	「パレスチナ連帯・札幌」
振込口座記号と番号	郵便振替「02700-8-75538」
ご依頼人	「おところ」「おなまえ」を記入
通信欄	「孤児たちに支援を!」と下記し、振込みください
期日	8月末日まで

(* 振り込まれた方には、後日お礼として、孤児達の写真をお届けします)

<連絡先>

パレスチナ連帯・札幌 松元保昭

TEL：011-882-0705

E-mail : y_matsu29@ybb.ne.jp

パレスチナ孤児支援実行委員会 白山晴雄

TEL：0126-25-0911

E-mail : hsipes60@gmail.com